

《 家族、友人、知人が 被害にあったとき 》

身近な人の言動により、被害者がさらに傷つくことがあります。二次被害(※)を受けることにならないよう、次のような言動に気を付けて接してみてください。

※二次被害:周囲の性暴力に対する偏見、無理解等による心無い言葉や行動により、被害者がさらなる精神的苦痛を受けること。

身近な人に気を付けてほしいこと

非難する

自分の動揺した気持ちをそのまま被害者にぶつけないでください

「なぜそんなことになったのか」
「聞いているだけで辛い、嫌な気分になる」等

疑う

被害者の話を疑ったり、否定しないでください

「そんなことありえない」
「あの人がそんなことをするはずがない」等

責める

被害者の落ち度を責めないでください

「あなたも悪かった」「あなたが不注意だった」
「～しなければよかった」等

軽視する

被害を軽いものとして扱ったり、無理に忘れさせようとししないでください

「たいしたことない」
「早く忘れてしまえばよい」等

押し付ける

被害者の意思や気持ちを大切にせず、よかれと思って一方的に助言したり、話を進めたりしないでください

「警察に相談すべき」「学校・仕事は辞めるべき」
「～することにしたから」等

安易な保証

安易に共感を示したり、励ましたり、鼓舞したりしないでください

「あなたなら大丈夫」「絶対できる」
「負けるな」「頑張れ」
「あなたの気持ちもわかるよ」等